

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

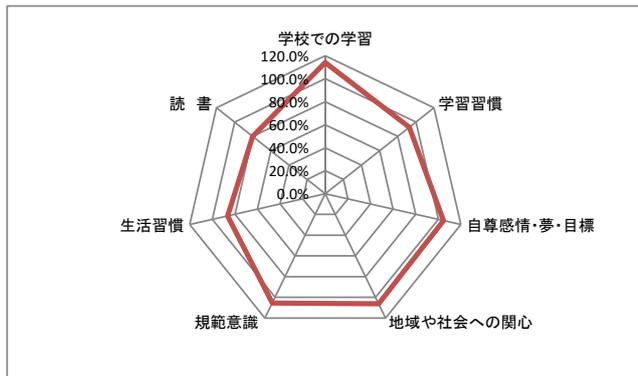
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を大きく下回る領域はなく、4領域のバランスがよい。 無解答率が0%や、0%に近い問題が増え、粘り強く問題を解こうとしている。 記述式の問題は正答率が低く、無回答率が高くなる傾向がある。 	下回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を大きく下回る領域はなく、4領域のバランスがよい。 無回答率が全国平均を下回る問題が多く、粘り強く問題を解こうとしている。 記述式の問題は正答率が低く、無回答率が高くなる傾向がある。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 「学校での学習」に関する回答は、全国平均を上回っていて、主体的に学習に取り組んでいることがわかる。
- 「自尊感情・夢・目標」に関する回答が全国平均を上回った。特に、数年来の課題だった自尊感情が高まったことは、とても喜ばしい。
- 「学習習慣」に関する回答は、年々向上してきているが、全国平均をわずかに下回っている。
- 「読書」に関する回答は、全国平均を下回っている。
- 「生活習慣」に関する回答は、全国平均を下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全校で、朝自習の国語の取組(漢字習熟・音読・視写など)や、パワーアップタイムの算数の取組(練習問題)を行う。
- 全校で、特別活動で行っている話合い活動を教科の学習に生かす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 朝食や就寝時間等の生活習慣の重要性について、学校通信や学年通信、懇談会等で保護者に伝える。